1. 事業全体の概要【施策の方向性】

鳥取県日南町・中央中国山地地域循環型林業モデル構想

キャッチフレーズ
～木材カスケード計画を基軸とする新たな循環型林業の創造～

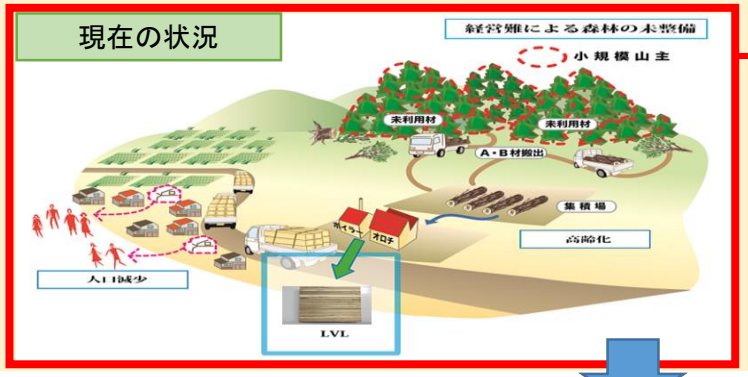
Ⅰ. 森林資源を無駄なく、かつ効率的に活用する「カスケード計画」を基軸とする新たな循環型林業を構築し、林業の成長産業化を目指す。

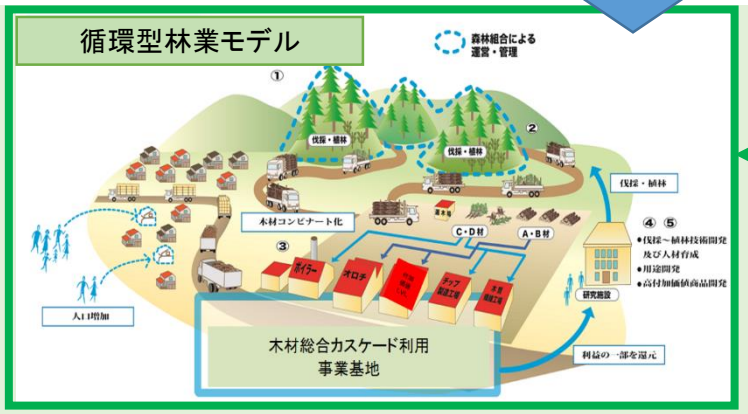
Ⅱ. 林業の成長産業化に伴い、新たな雇用を創出することで人口増加を目指すと同時に、町内の地域経済循環率向上を目指す。

Ⅲ. 林業の町にふさわしい、子育て支援・人材育成を行うことで、将来における林業業界の担い手の確保を目指す。

2. 地域の実態

●林齢構成の不均衡
→8齢級から11齢級が約60%を占めており皆伐再造林による林齢平準化が必要。
●民間林の不在村地主問題
→集約施業を行う上で大きな妨げになっており、施業同意が取れず集約施業ができない状　況が生じている。
●林業業界における恒常的な人手不足
→今後の大手企業進出に伴い、多くの木材搬出が予想される中、人材不足のため新たなビジネスモデルの実施が困難な状況が予想される。





3. 重点プロジェクトの概要

1.『使いきる』木材活用事業

①不在村地主等山林集約化事業

■不在村地主問題の解消に向け、森林組合と連携し、企業への売買斡旋等集約化を図る。そして、適切な森林管理を行うとともに、集約化施業を推進することで、未整備林をなくし、安定・継続的な事業確保を目指す。

②ICT技術を活用した中央中国山地地域モデル循環型林業の確立事業

■地上レーザー計測、山林3DスキャンなどのICT技術を活用し、正確な立木の情報を把握する。そして、今後実施することになる事業展開に備えるため、こうして得た正確な森林資源量を循環型林業を行う上での基礎データとして整理する。

③FSC材・FSC製品流通拡大事業

■県境を跨いだ近隣市町村・企業と連携を図りながら、FSC認証材の流通量を増やすことで、林業業界の収益の増加を目指す。また、既製製品についてもグローバルスタンダードとなりつつあるFSC認証材を使用することにより、より競争力の高い製品の製作と製造を図る。

④森林カスケード新マテリアル開発事業

■木を『使いきる』という点において、これまで産業廃棄物として処理していたバークを用いたバイオマス燃料を製造するとともに、大建工業㈱と連携したDWファイバー製造技術を用いた新商品開発を実施し、森林資源のマテリアル利用による地域経済の進展を図る。

⑤木材公共施設等整備事業

■町内に建設予定のコミュニティーセンターの建設や木質バイオマス熱変換を活用した木造農業用ハウス等の建設にあたり、町産材を100%使用したFSC認証LVL材を利用し、林業を核とする地域経済循環率を向上の図る。

2. 日南町版林業担い手育成事業

⑥林業アカデミー整備事業

■地域循環型林業モデルの各種事業実施に向けての人材確保は必須であり、とりわけ高性能林業機械の活用、それに伴う特別教育の資格取得は喫緊の課題である。そこで、林業アカデミーを開設し、林業労働力及び林産業が求める即戦力を育成するとともに、関連企業・大学等専門機関とタイアップしながら、中央中国山地地域の求める人材の育成を図る。

⑦200年の森等木育整備事業

■林業の町ならではの教育を行うことを目的に、「木育」を積極的に実施する。具体的には、樹齢200年のスギ林の一部をフィールドとしたカリキュラムを大学と連携して構築するとともに、子どもから大人まで木の魅力を学べる場を創出する。とりわけ子どもには、木や森林それに関わる仕事の大切さという点について重点的に学ぶことのできる機会を提供し、林業の魅力を浸透させていく。

4. 地域の関係者で実現する将来像

●行政・関係企業が一体となり、循環型林業を構築し、林業を「稼げる職業」「魅力ある仕事」に昇華させ、多くの人を呼び込み、その経済波及効果によって過疎からの脱却を目指す。
●県域を超えた取組とすることで、単一市町村では困難なFSC認証材の販路拡大を進め、他の国産材との競争力を向上させる。